



著者プロフィール

伊藤通明（いとう・みちあき）

1935年11月16日、福岡県福岡町に生まれる。56年、安住敦の「春燈」に人会。62年、同人誌「裸足」を創刊編集する。76年、角川俳句賞。77年、福岡巾文学賞。80年に句集『白桃』刊、同書により俳人協会新人賞を受賞。83年『自註伊藤通明集』を刊行。86年、「裸足」を結社誌「白桃」に改め、主宰となる。89年に句集『西国』刊。98年に句集『蓬萊』刊。その他の編著書に『秀句三五〇選 鳥』『秀句三五〇選 海』『久保田万太郎』など。

〈句集『荒神』より転載〉〈2008年6月25日時点〉

『荒神』（自選15句）

伊藤通明

ももいろをはなれて桃の花粟
白桃をすするによよといふ容
西行忌こゑを使はず暮れにけり
淡雪やさくらと呼びしえびの色
鷹の座は断崖にあり天の川
螢火の遠き一つは観世音
一生の一師に尽きしころもがへ
家系図は長子が継げり稻の花
いつの世も戦がありて手毬唄
大瀬の天の川よりはじまりし
青ざめし踏絵のマリア浮き上る
激浪を崖がつぶして日の盛
曖昧に生きてはをらず油照り
木の性の現れし佛や天の川
直情の身過ぎでありし曼珠沙花